中ソ貿易の動向

中ソ両国の貿易は、1950年および54年にソ連から中共に供与された合計4.3億ドル以上の償還および1953年以降4回にわたる長期経済協力協定、ならびにコムおよびチェンコムによる自由観光の対中輸出制限措置を背景として、著しく伸長した。すなわち、中建国の翌年の1950年の輸出入合計は5.1億ルーブル（本文中はすべて新ルーブルに換算、約5.7億ドル）にすぎなかったが、1959年には18.5億ルーブル（約20.5億ドル）となり、この間3.6倍に増加した。このため、中の中貿易総額に占める對貿易の比率は、1950年の31％から、1952年には57％へ上昇し、その後、1955年の62%を頂点として若干の低下を示したものの、常に50％以上を維持し、中共にとって、ソ連が最大の貿易相手国となっている。一方、ソ連にとっても、中共は東ドイツとく1位を争う重要な貿易相手国であり、対中貿易は、ソ連の貿易総額の2割近くを占めてきた。

両国間の取引品目をみると、中共の輸入では、生産財が常に総額のほとんどを占めているが、そのうちもっとも機械および設備類、石油、鉄鋼ならびにそれらの製品の占める比率が大きい。すなわち、1950年においては、輸入総額のうち、機械および設備類は10％、鉄鋼および同製品は5％、石油および同製品は3％にすぎなかったが、1959年においては、それぞれ62％、8％、および21％に上昇している。一方、中共の輸出では、農畜産品が総額の5割を占めているが、注目されることは、輸出に占める繊維品の割合が、1952年の3％から、1957年18％、1959年37％、1960年40％と急激な上昇を示していることである。

しかし、1960年には、中ソ貿易は中共の凶作を主因とする経済情勢の悪化とそれに伴う輸出力を減退を伴うに転じている。すなわち、1960年の貿易は、中共側輸出763.3
百万ルーブル（約848百万ドル）、輸入735.4百万ルーブル（約817百万ドル）、輸出入合計1,498.7百万ルーブル（約1,665百万ドル）で、前年に比べ、前者は23%減、後者は14%減、輸出入合計では19%の減少となった。

主要輸出入品目についてみると、中共の輸出では、1959年に比べ増加したものは、わずかに、鉄鋼（67%増）、化学製品（39%増）および皮（14%増）だけで、その他は低下傾向、とくに、主要品目である米、大豆、綿花、野菜、果物、生糸、薬品および肉類などの3〜6割減、タン、およびその他非鉄金属も17%方の大幅減少を示した。一方、ソ連からの輸出は、オートメーション設備、圧延鋼製品およびトラックは3〜4割増加し、また石油および石油製品、はば横ばいながら、鉄道車両が、前年の68%減を、わずか5百万ルーブルに激減し、また、中共の輸入品の大半であるプラントも7%方の減少を示した。

1961年の貿易実績は、まだ明らかでないが、同年の貿易取決めでは、中共の対ソ輸出品目から、茶を除く食糧（米、大豆、豆類、谷物、卵および食用植物油など）がはずされており、また、綿花、毛織、豚の小腸も減少を見込まれていた。したがって、同年の対ソ輸出は、1960年よりも一段と減少、一方、ソ連輸入も減少したこととみられる。

なお、貿易廃は、対ソ借換による影響もあり、1955年までは、中共が入超を続けていたが、1956年以降、対ソ借換の返済を主因として出超となり、1960年には出超額は27.9百万ルーブルで、前年の13.2百万ルーブルに比べ、約5分の1に縮小した。

本年の貿易額がどの程度に上るかは、いまのところ中ソ両国間の取決めが結ばれていないので、明らかでないが、中共における農業不作による経済危機、アルバニア問題をめぐる中ソ関係の悪化などから、さらに縮減が予想される。

この点、最近中共が、従来ソ連圏から買い入れていた航空機を英国から買い付けたことは、今後の中ソ経済関係上、注目を要するとところであろう。

<table>
<thead>
<tr>
<th>主要取引品目</th>
<th>1959年</th>
<th>1960年</th>
<th>増減率</th>
<th>1959年</th>
<th>1960年</th>
<th>増減率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>中共御輸出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>紙製品</td>
<td>318.9</td>
<td>288.4</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>金蔵鉱石</td>
<td>66.0</td>
<td>55.0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>大豆</td>
<td>60.7</td>
<td>32.1</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>極花</td>
<td>47.1</td>
<td>30.5</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>絹</td>
<td>33.0</td>
<td>37.6</td>
</tr>
<tr>
<td>絹</td>
<td>37.5</td>
<td>31.2</td>
<td>-17%</td>
<td>トーキョー</td>
<td>17.7</td>
<td>17.4</td>
</tr>
<tr>
<td>絹</td>
<td>33.0</td>
<td>37.6</td>
<td>+14%</td>
<td>トーキョー</td>
<td>16.8</td>
<td>21.5</td>
</tr>
<tr>
<td>極</td>
<td>19.7</td>
<td>17.4</td>
<td>-12%</td>
<td>野菜類</td>
<td>12.3</td>
<td>19.9</td>
</tr>
<tr>
<td>野菜類</td>
<td>8.9</td>
<td>8.4</td>
<td>-5%</td>
<td>野菜類</td>
<td>12.9</td>
<td>12.6</td>
</tr>
<tr>
<td>燃料油</td>
<td>15.6</td>
<td>10.8</td>
<td>-31%</td>
<td>燃料油</td>
<td>6.8</td>
<td>6.6</td>
</tr>
<tr>
<td>燃料油</td>
<td>6.8</td>
<td>11.4</td>
<td>+67%</td>
<td>鉄鋼</td>
<td>23.9</td>
<td>6.6</td>
</tr>
<tr>
<td>化学品</td>
<td>6.7</td>
<td>9.3</td>
<td>+39%</td>
<td>化学品</td>
<td>4.6</td>
<td>7.8</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>174.9</td>
<td>159.5</td>
<td>-34%</td>
<td>その他</td>
<td>191.7</td>
<td>133.1</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>990.3</td>
<td>763.3</td>
<td>-23%</td>
<td>計</td>
<td>859.1</td>
<td>735.4</td>
</tr>
</tbody>
</table>

国別動向

米州諸国

米国

(景気は力強く上昇)

昨年末の一時的停滞から再び上昇に転じた米国経済は、その後も強い上昇を続ける。12月の観光業発生賃金指数は115（前時比1ポイント上昇）2月の北極圏では13％の増加となった。大規模の自動車生産が12月で279万台を前年を140%上昇を示し、鉄鋼生産も12月にあっても大幅に増加を上昇、23日に終わりせる年末の生産は223万トン（推定生産率77.3％）